

事務事業 No./名 称	■サービス部門 子育て・11 私立保育所助成事業 □支 援 部 門									
主管課	保育課	関連課	こどもみらい課							
分野名	健康福祉									
目標 (目標値)	地域の子育て支援を行う。 待機児童0人									
人口等の データ	データ区分	24年度	23年度	22年度	備 考					
	人 口	177,224人	177,204人	177,161人	・各年4月1日(住民基本台帳) ・対象者数=各年4月1日現在 私立入所児童数					
	世 帯 数	79,669世帯	79,217世帯	78,812世帯						
	事業の対象者数	1,453人	1,290人	1,079人						
運営資源 状 況	決算値(千円)	506,357	466,216	391,100						
	(国・県)	137,408	126,420	110,794						
	(負担金等)									
	(一般財源)	368,949	339,796	280,306						
	人員配置数	1.0人	1.0人	1.0人						
	人件費(千円)	8,123	8,713	8,689						
	協働の パートナー									
事務事業 運営経費	総事業費(千円)	514,480	474,929	399,789						
	市民1人当 りの経費(円)	2,903	2,680	2,257						
	対象者1人 当りの経費(円)	354,081	368,162	370,518						
ベンチマーク (県内外自治体 や民間団体と の比較値)	団体名⇒									
指 標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(27年度)			
待機児童数(各年度4月1日現在・ 私立保育園分)	○	目標値	10人	5人	5人	5人	0人			
実績値		26人	28人	21人	25人					
◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退										

評価のポイント

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

小事業名	H24決算値	評価	適切＝○、要改善＝△(評価の視点を参照)	⇒	方向性	A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止									
私立保育所助成事業	506,357千円	①効率性	○	②妥当性	○	③有効性	○	④公平性	○	⇒	☐ A	☒ B	☐ C	☐ D	☐ E
	事業の概要	市内在住の児童が入所している私立保育所に係る運営費等に対する補助金を交付し、施設経営の健全化を図る。													
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒	☐ A	☐ B	☐ C	☐ D	☐ E
	事業の概要														
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒	☐ A	☐ B	☐ C	☐ D	☐ E
	事業の概要														
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒	☐ A	☐ B	☐ C	☐ D	☐ E
	事業の概要														
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒	☐ A	☐ B	☐ C	☐ D	☐ E
	事業の概要														

事務事業の課題及び取組状況

H24年度の課題	待機児童解消を目指し定員増を図っているが、待機児童の解消には至っていない。更なる工夫、取り組みが必要である。また、入所児童数の増に伴い、補助金の支出が増えてきているが、神奈川県の市に対する補助金の額は減額傾向にあるため、市負担が増となっている。		
課題解決のための取組	待機児童対策として、保育所最低基準を遵守しつつ、保育士の弾力的配置等により、定員を超えた入所児童の受入れを行った。本事業により私立保育所の経営安定化、健全化を図ることができた。また、神奈川県の市に対する補助金の減額交付については、機会を捉え適正な交付を県に要望している。なお、事業の対象者数及び指標となる待機児童数については、これまで各年3月1日現在でとらえていたが、平成24年度に4月1日現在でとらえるべく見直しを行った。	取組の結果	□解 決 ■未解決
未解決の課題	待機児童の解消。神奈川県の市に対する補助金の減額交付。		

中事業の評価と今後の方向性

中事業の評価	適切○ 要改善△ (評価の視点を参照) 	①効率性	○	今後の 方向性	A: 充実・拡大 B: 現状継続C: 改善・見直しD: 統合縮小 E: 廃止・休止	※□事業完了	
		②妥当性	○		 C	待機児童の解消に向けて、玉縄・鎌倉地域の子育て支援施設の整備計画を策定しながら、入所枠の拡大を図るとともに、私立保育所の定員増等に取り組んでいく。私立保育所に対して運営費の補助を行うことにより、経営の安定化、健全化を図ることができているが、補助制度の抜本的な見直しを図り、効率的な運営支援による保育事業の推進を図る必要がある。	課長等名
		③有効性	○				保育課長
		④公平性	○				進藤 勝

(2面) 個別事業の評価

(単位:千円)

小事業名	ザイムスコード	個別事業名	24年度予算	24年度決算値	評価⇒適切=○、要改善=△(1面の評価の視点を参照)			
					①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性
私立保育所助成事業	主な個別事業	790 民間保育所運営費補助金	35,381	30,778	○	○	○	○
		790 民間保育所運営改善費補助金	51,163	48,578	○	○	○	○
		790 延長保育事業等補助金	14,709	13,542	○	○	○	○
		69 民間保育所運営費補助金	160,600	140,095	○	○	○	○
		69 民間保育所運営改善費補助金	166,430	165,981	○	○	○	○
		69 障害児保育事業費補助金	10,030	10,559	○	○	○	○
		69 延長保育事業等補助金	81,888	82,700	○	○	○	○
		69 一時預かり事業等補助金	6,148	5,516	○	○	○	○
		69 休日保育事業補助金	1,108	1,171	○	○	○	○
		69 保育所児童虐待防止対策緊急強化事業	0	7,437	○	○	○	○
	主な個別事業							
	主な個別事業							
	主な個別事業							
	主な個別事業							
	主な個別事業							